

中国西北部の青海省西寧市にある湟中^{こうちゅう}区第一中学で、8 年生（日本の中学 2 年生にあたる）の男子生徒 2 人が、6 月 5 日と 26 日にあいついで急死した。ともに血液培養で髄膜炎菌陽性であった。7 月 3 日夜、各メディアが報道した。

西寧市湟中区教育局と衛生健康局公表内容の要旨¹

一、基本状況

湟中区第一中学では、初級中学校（日本の中学）1,542 名（すべて自宅通学）、高級中学校（日本の高校）2,759 名（寄宿学生が 1,341 名、自宅通学が 1,418 名）が学んでいる。

症例 1 A くん¹の状況

2024 年 6 月 5 日夜、湟中区第一中学 8 年 5 組の A くんが、青海省婦人小児病院で、救命措置のかわなく死亡した。

- ・ 6 月 5 日は学校が大学統一入試の会場となる準備のため、午前の 3 限目で授業が終了し、A くんは帰宅してクラスのグループチャットに「家に着いた」と報告。
- ・ 6 月 6 日昼、A くん¹の保護者から、6 月 5 日夜 A くんが死亡した旨、担任に電話があった。
- ・ 6 月 8 日、湟中区 CDC は中国 CDC の情報システムから「青海省婦人小児病院で湟中区の流行性髄膜炎患者 1 例発生」の自動アラートを受け、区教育局に「死亡した A 学生の死亡診断は膿毒症で、血液培養で髄膜炎菌陽性」であることを連絡。
- ・ 6 月 9 日、湟中区 CDC は『全国流行性髄膜炎モニタリング方案』にもとづき、A くん¹のクラスの学生、職員全員の咽頭ぬぐい液を採取、学級閉鎖にして、在宅で健康モニタリングを行ない、予防性服薬等の措置を推奨、省・市・区の CDC は疫学調査と処置をおこなった。
- ・ この期間、学校は衛生健康局と CDC の指示にしたがい、朝昼の健康チェックや消毒等を実施。
- ・ 衛生健康局、CDC、教育局、社区卫生サービスセンターは現場検査、指導を担当し、区内の全学校に常態化防疫の強化を指示。
- ・ 6 月 12 日、西寧市 CDC は、A くん¹の濃厚接触者全員の検査結果は異常なしと発表。

¹ 『关于湟中区第一中学 2 名学生因病死亡相关情况的通告』湟中融媒 2024.7.3 <https://mp.weixin.qq.com/s/mlthhK39EPncL5RbNvWtng>

- ・最長潜伏期 7 日間の医学観察期間中に同校に新しい症例なし

→ 6 月 13 日から同クラスも通常どおり授業再開。学校は消毒や防疫措置を継続。

症例 2 B くん の 状況

2024 年 6 月 26 日昼、湟中区第一中学 8 年 5 組の B くん（15）が、青海大学附属病院で、救命措置のかいなく死亡した。

- ・ 6 月 25 日夜、B くん の 保護者から学校に、「子どもが帰宅後寒気を訴えているが、学校で何か活動でもあったのですか？」と電話があった。
- ・ 学校は 6 月 25 日当日は通常の授業を行ない、課外活動はなかった。
- ・ 6 月 25 日午後、B くん は放課後 7 人の学生と、コートでバスケットボールをしていた。

B くん の ご 家族 の SNS

「（息子は）25 日の朝登校時はよかったのですが、夕方帰宅した時は熱がありました。

『バスケットで風邪をひいたんじゃないの？』と聞くと、『体育の時間に校庭を走ったからかな。』

『悪いものでも食べた？』『昼は学校の食堂で牛肉麺を食べたけど、他には何も食べてない。』

25 日の晩は発熱以外症状はなく、薬（イブプロフェンと抗ウイルス²）を飲んですぐ眠りました。

夜中 2 時半に、調子はどうかと聞くと、『だいぶよくなった』と答えたので、私は『前回のお薬から 6 時間経ってるので、もう一度薬を飲めば』と飲ませ、息子はまたすぐ寝てしまいました。

朝 6 時半には、腕やふくらはぎに紫色の斑点が出て、身体じゅうの筋肉が痛むので、すぐに西寧市第一人民医院に行ったのですが、診てくれず、青海大学附属病院に行くと、そのまま ICU に入りました。そしてお昼の 12 時ごろに亡くなったのです。

- ・ 6 月 26 日朝 B くん の 保護者から担任に「子どもの調子がよくないので休ませる」と電話があった。
- ・ 6 月 26 日昼、B くん の 保護者から担任に、B くん が青海大学附属病院で死亡した旨電話があった。
- ・ 区教育局、区 CDC は即刻状況把握のため青海大学附属病院に向かった。
- ・ 病院：主な診断は電撃性紫斑病（B くん は 7 年前、アレルギー性紫斑病に罹患）。
- ・ 6 月 27 日青海大学附属病院から区 CDC に、「B くん の 血液培養結果は髄膜炎菌陽性」と連絡。

²薬剤名は不詳。中国では街の薬局で買える中薬の「抗ウイルス内服液」もよく飲まれている。

- ・省・市・区の CDC の調査班は、湟中区第一中学疫学調査と処置をおこなった。
- ・B さんの濃厚接触者 91 人のサンプルを採取。
B さんの祖父母はサンプル採取を拒否したため、在宅健康モニタリングと予防服薬を実施。
- ・7 月 2 日、西寧市 CDC は、B さんの濃厚接触者のサンプルの検査結果はすべて異常なしと発表。

症例 1、症例 2 の関連状況³

- ・流行性髄膜炎は乙類感染症で、潜伏期は 1～7 日。2～3 日のことが多い（原文のまま）。
- ・6 月 8 日の B さんの咽頭サンプルの検査結果は陰性で、6 月 25 日の発病までには 20 日間の間隔があった（原文のまま）。

二、すでに実行した措置

1. 湟中区第一中学は、区 CDC の指導下、死亡症例の活動した場所の終末消毒を完成。
 ・省・市・区の CDC の疫学調査では、死亡の 2 名以外に疑わしい症状のある学生、職員はいない。
2. 区教育局は区 CDC の指導下、朝昼の健康チェックや消毒、个人防护の宣传教育を実施。
3. 当区のすべての濃厚接触者の在宅健康モニタリングを実施、各郷鎮衛生院、社区卫生サービスセンターが毎日 2 回のモニタリングを行ない、無料で予防性薬物を提供して服用を促した。人との接触をできるだけ減らし、疑わしい症状が出た場合には、マスク着用ですみやかに受診するよう告知。
 当区居住者以外の濃厚接触者は、西寧市 CDC と連携し地元の CDC の下で健康モニタリングを実施。
4. 省・市・区の CDC は、『全国流行性髄膜炎モニタリング方案』に沿って、学校や症例のクラスの学生、職員に、感染症についての教育、宣伝、防疫を実施、必要のない外出、集まりを控えるよう通知。
 ・区内の全学校でも、防疫の強化、朝昼の健康チェック実施を行ない、発熱や頭痛などがあれば、保護者に連絡するとともに区 CDC に報告する。
 ・毎日窓を開けて換気、消毒を行ない、病欠の登録と追跡を厳格に実施する。

三、ご遺族の訪問と世論への対応

- ・6 月 27 日昼、B さんの叔母さん、叔父さん、おじいさんのお姉さんの 3 人が学校に来られ、（A さん死亡のあとで発生した）B さんの病死について、学校が責任を取るべきだと話された。学校はお話をお

³ 中国 CDC『全国流行性髄膜炎モニタリング方案（2006 年）』潜伏期の記載はないが、モニタリング等は最終症例の発症から 10 日間実施 https://www.chinacdc.cn/jkzt/crb/zl/lxxnjismy/jszl_2227/200608/t20060815_24487.html
 国家卫生健康委『流行性髄膜炎診療方案（2023 年）』では、「潜伏期は 1～7 日。2～3 日のことが多い」
<http://www.nhc.gov.cn/ylyjs/pqt/202312/75cfff021a484d0c9c200f85f2bf746b.shtml>
 日本の厚生労働省検疫所 FORTH『髄膜炎菌性髄膜炎』では、「1～14 日の潜伏期間」
forth.go.jp 髄膜炎菌性髄膜炎（Meningococcal infection）

聞きしてお答えした。

ご家族は区教育局にも訴えにいかれ、局長と分管局長が応対して、誠心誠意お答えした。

・7月2日、市CDCから検査結果がすべて陰性という結果が出たあと、学校と区教育局はご遺族の慰問にうかがい、ご質問にお答えした。

・7月1日、区教育局、市教育局、区ネットワーク安全情報委員会が「湟中区第一中学学生死亡事件」についての世論について区政府、区委員会に報告。

・区委員会は専門の会議を開くとともに、ご遺族への弔問、学校再開前のサンプル検査、在校生や職員へのワクチン接種等、必要な事項を一つ一つ実行していくことを決定。7月2日再度会議を招集。

ご家族の SNS

「息子の血液培養の結果は A くんと同じでした。A ちゃんと息子は同じクラスで席も近いんです。うちの子は学校以外のところに行くような子じゃありません。

A くんが亡くなった時、学校は『強いウイルスに感染して亡くなった』と説明しただけで、急性脳膜炎だとは言ってくれませんでした。ただ、13 日まで学級閉鎖するという通知と、流行性脳膜炎のワクチン接種の統計をとり、サンプル採取しただけでした。」

「お医者さんは、何年もこういう病気は出現していない、と言われました。息子は学校で感染したんです。学校は、この病気の重大さ、感染しやすさ、死に至るということを、はっきり知らせてくれてなかったのです。学校は公開謝罪をしてほしい、それで息子は安心して眠ることができます。」

訳者より

この2例はどちらも直前まで元気な中学生で、突然生命を絶たれ本当に残念である。病状の急激な進展、劇症化に警戒しないといけない。

A くんの死亡直後の検査で B くんは陰性だったが、COVID-19 対策時のように繰り返し検査をしていれば早く発見された可能性があるのではないかと。中高生は日常的に体の接触もあり、学校に寄宿舎もあるため、1 学級だけの閉鎖でよかったのか、学級閉鎖の期間は妥当か（中国では潜伏期を最大 7 日としている）等、検討が必要。学生が発症した場合の病院の受け入れ態勢を整備できればよかった。

感染対策は形骸化すると効果がないので、重大な疾患の場合は、学生や保護者にも正しく告げて、対策を徹底するべきである。

Q&A 日本の先生からのご質問にお答えします

1. 中国の猩紅熱の死亡例について

・2018年1月～2024年5月の中国CDCのデータでは、2020年に広東省で1例死亡。その他の死亡例の報告はありません。

2. 中国のA群溶連菌による壊死性筋膜炎について

中国では今のところ、A群溶連菌による壊死性筋膜炎の症例はあまりありません。

ざっと文献検索した結果では、

2012年マカオで3例（2例生存、1例死亡）⁴、

2023年10月の論文に記載の福建省晋江市病院で治療した2例（2例とも生存）⁵

2013年5月～2020年3月、北京朝陽病院で25名の壊死性筋膜炎を治療、全員が上肢、下肢の切断なく回復。うち5例がA群溶連菌感染例⁶。

等がありましたが、あまり多くありません。

⁴季銀樑,黎啟盛.A族鏈球菌感染致急性壊死性筋膜炎3例報告.鏡湖医学, 2013, 13(1):55-57.

⁵刘晓峰,郑勇强,林亮,等.2例化脓性链球菌感染导致毒素休克综合征及坏死性筋膜炎病例分析.生物医学转化, 2023, 4(4):26-30.

⁶赵海磊,赵晓慧,杨彬,等.综合治疗急性坏死性筋膜炎25例.中华烧伤杂志, 2021, 37(4):4.DOI:10.3760/cmaj.cn501120-20200426-00238.